

代表質問

大牟田市のよさを生かした希望のまちづくり



動画視聴

公明党議員団
三宅 智加子 議員

移住者の獲得を目指し、平成29年から取り組んだシティプロモーション戦略の見直しが行われたが、見直しの内容と目指すものは何か。

再発言 事業者支援については、今後新しい情報もあると思う。スピード感を持って取り組んでほしい。

令和2年7月豪雨被害の
復旧・復興

問 被災者へのアウトリーチ（訪問支援）の取組である大牟田市地域支え合いセンターの概要について聞きたい。

答 生活支援相談員と補助員が二人一組で被災地域を巡回訪問し、困り事や心配事がないかの聞き取りなど、継続した見守りや専門機関等と連携した支援活動を行っている。

市長就任1年を迎えての
市長の思い

問 市長は、この1年間、全世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るう中の感染症対策や令和2年7月豪雨の復旧・復興に現在も取り組まれている。市長就任1年を迎えての市長の思いを聞きたい。

答 若者が夢を持って働くまちづくりなど、就任時より申し上げている三つのまちづくりにしっかり取り組むことはもちろん、災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくり、新型コロナウイルス感染症対策と地域経済の活性化という新たな課題も加えて、全力でまちづくりを進めていきたい。

再発言 若者が夢を持って働くまちづくりを進めるに当たっては、地域企業への人材確保という観点で、市内高校や有明高专とともに帝京大学を含めた地域への就業促進の仕組みづくりの検討を始めてもらいたい。

大牟田市シティプロモーション戦略の見直し

問 市民の定住と市外からの

答 コロナ禍での新たな生活様式におけるプロモーションの在り方や大牟田市公式キャラクター「ジャー坊」の利活用の促進などを追記している。また、テレワークなどにより人々の働き方や居住地に対する意識が変わりつつあり、地方移住の関心が高まっているため、この機を逃がさぬよう移住人口の増加を目指したい。



(大牟田市公式キャラクター「ジャー坊」)

新型コロナウイルス
感染症対策

問 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、市内事業者への支援の現状は。

答 国・県・市で様々な支援策に取り組んでいるが、事業者の皆様にしっかり周知していくことも重要であるため、広報おおむたなどの広報媒体、報道発表、関係機関・団体の会報誌、メルマガ等も活用して情報発信に努めている。

大牟田市の宝を生かした
まちづくり

問 4月開館予定のともだちや絵本美術館は、来館者が心豊かになる場所であってほしいと思う。ともだちや絵本美術館開館準備検討委員会での検討にもあるように、ロゴマークやテーマカラーなど絵本美術館の世界観に立った空間の演出が重要ではないかと考える。見解を聞きたい。

答 同検討委員会と協議しながら、可能なものはできる限り取り入れて対応したい。

再発言 絵本美術館には、絵本の企画展示の立案、貴重な原画の活用など、専門的な知識・センス・ネットワークを持った専門家も必要だと思う。

開館がゴールではなく、その後が重要。かけがえのない宝を生かすためにも専門家の配置を検討してほしい。